

第77回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2014年5月26日（月）10:00～19:30
2. 場 所：日本機械学会 第1会議室
3. 出席者：（委員22名中、出席者19名 敬称略）
永田（日立GE）、月森（JAEA）、山田（中部電力）、古川（電気協会）
鹿島（電中研）、野村（関電）、小林（日本原電）、兼近（鹿島：PM）、町田（テプコシステムズ）
杉江（原安進）、神坐（富士電機）、鬼沢（JAEA）、岩佐（東芝）、小島（東電）
小山（三菱重工）、肥田（中部プラントサービス）、田中（JSW）、望月（大阪大）
代理：大石（発電技検：佐藤）
欠席：笠原（東大）、栗飯原（東大）
オブザーバー：北条／小林／石生／朝田／濱口（MHI）、清水（日立GE）、天野／瀬良（関電）
日野（大林組）、中間／西澤（日本原電）、菅原（東電）、安達（東芝）、浅山（JAEA）
稲田／三枝（電中研）、菊池（NRA）、下条（神戸製鋼所）
事務局：小沢、栗津、高柳
4. 配布資料
77-1：第76回原子力専門委員会議事録案
77-2：投票結果
77-3：新規質問及び未回答質問
77-4：第68回発電用設備規格委員会議事録案
77-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案
77-6-1：専門委員会運営規約改訂提案
77-6-2：技術評価対応ガイドライン案
77-6-3：JSME 規格技術評価状況報告
77-6-4：SDO Statements on MDEP Conference at 14-15, May 2014
77-6-5：原子力関連学協会規格類協議会状況
77-6-6：第1回耐震許容応力検討タスクフェーズ2 議事録
77-7-1：SA 時構造健全性評価 GL 関係本日の御説明内容
77-7-2-1：SA 時の構造健全性評価 GL（PWR 鋼製格納容器編）の概要及び論点説明
77-7-2-3：SA 時の構造健全性評価 GL（PWR 鋼製格納容器編）
77-8-1：金属キャスク構造規格 2014 年版の今後の対応方針
77-8-2：金属キャスク構造規格（2007 年版）事例規格集改訂提案に対する原子力専門委員会書面投票の今後の対応
77-9-1：コンクリート製原子炉格納容器規格の審議について
77-10-1：事例規格 「JEAC4601-2008「耐震設計技術規程」の地震力の扱い」の改訂
77-10-2：事例規格 原子炉容器炉内計装筒 J 溶接部の欠陥評価
77-10-3：事例規格 ニッケル合金大気中疲労き裂進展速度線図
77-10-4：参照している溶接規格の図表等の番号の見直し
77-11-1：原子力専門委員会書面投票意見（NO. 346）への回答案
77-11-2：原子力専門委員会書面投票意見（NO. 347）への回答案
77-11-3：規格委員会書面投票意見（NO. 254）への回答案
77-11-4：規格委員会書面投票意見（NO. 255）への回答案
77-11-5：溶接規格 2015 年追補改訂案
77-12-1-1：設計・建設規格 2014 年追補追加改訂案規格委員会書面投票コメント対応案の提案
77-12-1-2：設計・建設規格 2014 年追補追加改訂案規格委員会書面投票コメント及び対応案
77-12-1-3：2014 年追補材料規格改訂案（その2、3）及び溶接規格改訂案（その3）影響評価
77-12-1-4：設計・建設規格 2014 年追補追加改訂案一覧表
77-12-2-1：クラス 2 ポンプ鋳造品に対する非破壊試験要求
77-12-2-2：計装用ウェルのシール溶接の現場溶接の扱い

77-12-2-3：クラス 2 容器継手区分 D 構造図備考誤記
77-12-3：設計・建設規格 2012 年版正誤表提案
77-13-1：規格委員会書面投票結果対応
77-13-2：原子力専門委員会書面投票結果対応
77-13-3：材料規格 2014 年追補改訂案（その 3）提案
77-13-4：質疑応答
77-13-5：正誤表発行の提案
77-14-1：設計・建設規格第Ⅱ編 2014 年追補案書面投票 NO. 350 意見対応
77-14-2：設計・建設規格第Ⅱ編 2014 年追補案（その 2）
77-15-1：規格委員会書面投票 NO. 245 意見への対応
77-15-2：規格委員会書面投票 NO. 246 意見への対応
77-15-3：規格委員会書面投票 NO. 253 意見への対応
77-15-4：RT を適用する際の引用規格の見直し
77-15-5：各配管構成要素の形状係数の引用文献の修正
77-16：各分科会活動報告

5. 議事内容

（1）開会

永田委員長が委員会開会を宣言した。

（2）出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

（3）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

（4）前回議事録確認【資料 77-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

（5）投票結果報告【資料 77-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No. 342 から 353、規格委員会投票 No. 250 から 258 の投票結果が報告された。

（6）新規質問及び未回答質問【資料 77-3】

事務局より、設計・建設規格に関する新規質問（8 件）と継続検討中の質問（1 件）の状況が報告された。

（7）第 68 回発電用設備規格委員会議事録等報告【資料 77-4】

事務局より、第 68 回発電用設備規格委員会の議事録案が報告された。

（8）原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 77-5】

事務局から以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕永田委員長（委員としての任期）、岩佐委員、笠原委員、神坐委員

〔退任〕小木曾委員

〔新任〕平野氏（IHI）、中村氏（川崎重工業）

設計・建設分科会：

〔新任〕谷口氏（東電）

材料分科会：

〔再任〕宇和川委員

〔新任〕谷口氏（東電）

維持規格分科会：

〔再任〕齋藤副主査、高屋委員

〔退任〕守中委員

〔新任〕安藤氏（日立GE）

溶接分科会：

〔再任〕小林副主査

〔退任〕南委員

〔新任〕峯村氏（東芝）

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔新任〕水谷氏（東電）、浅井氏（中部電力）

認証・認定分科会：

〔退任〕錦野委員

〔新任〕千葉氏（日立GE）

配管破損防護設計規格分科会：

〔再任〕戸村幹事、平沼委員

コンクリート製格納容器規格分科会：

〔再任〕西川主査、瀧口副主査、兼近委員、神地委員、清水委員、三浦委員、小野委員

高温規格分科会：

〔再任〕中山委員、安藤委員、高屋委員

環境疲労評価分科会：

〔再任〕鈴木委員、新井委員

再処理設備分科会：

該当なし

配管減肉分科会：

〔再任〕稲田主査、小島幹事、渡辺委員、中村委員、濱口委員、鈴鹿委員

〔退任〕西口委員、日高委員

〔新任〕小谷氏（日立GE）

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

（９）原子力専門委員会運営に関する審議／報告事項

〔審議事項〕

（９－１）専門委員会運営規約改訂提案【資料 77-6-1】

永田委員長より専門委員会運営規約改訂提案に関する説明が行われた。常時参加者の新設、委員会補足倫理規定の追加等の改訂を規格委員会運営規約が実施したことを受け、同様な改訂を専門委員会運営規約でも実施する。常時参加者は規制庁からの参加者を想定している。ホームページで公開される委員名簿には氏名を掲載しないが、議論には委員と同じラウンドテーブルに着いて参加する。投票権はない。常時参加者の新設は原子力専門委員会傘下の各分科会でも行われるが、規約改訂案で読めることを確認する。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－２）技術評価対応ガイドライン案【資料 77-6-2】

小山委員より技術評価対応ガイドライン案に関する説明が行われた。本件、JSME 内における技術評価対応のルールを定めたもの。規制庁に本ルールを説明することはないが、将来的には JSME と規制庁の技術評価に関する相互理解（例えば規制庁から JSME に急な質問は寄こさない等）に役立てることも検討する。保安院時代は原子力関連学協会規格類協議会の場で保安院に規格技術評価計画に関する要望を伝えることができたが、今の規

制庁とでは、その様なことはできない。今後の課題である。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

〔報告事項〕

（９－３）JSME 規格技術評価状況報告【資料 77-6-3】

永田委員長より JSME 規格技術評価状況に関する説明が行われた。設計・建設規格 2012 年版と材料規格 2012 年版の技術評価については、5 月 1 日に実施された材料規格 2012 年版の技術評価に関する規制庁との面談により、対応作業はほぼ終了。現在公衆審査待ち。次の技術評価対象規格である溶接規格については今週、JSME と規制庁間で関係者の事前打合せが行われる予定。

（９－４）SDO Statements on MDEP Conference at 14-15, May 2014【資料 77-6-4】

永田委員長より 5 月に開催された MDEP コンファレンスに関する説明が行われた。JSME からは宮口規格委員会幹事が出席し、規制当局側への民間規格策定活動参画要求等を説明した。次回はプラハで開催される ICONE-22 と同時に開催され、森下規格委員会委員が参加予定である。

（９－５）原子力関連学協会規格類協議会状況【資料 77-6-5】

永田委員長より原子力関連学協会規格類協議会の状況として、学協会規格整備計画 52 項目の見直し実施状況等に関する説明が行われた。JSME においても、竜巻影響評価ガイドの検討を開始した。

（９－６）第 1 回耐震許容応力検討タスクフェーズ 2 議事録案【資料 77-6-6】

永田委員長より第 1 回耐震許容応力検討タスクフェーズ 2 議事録案に関する説明が行われた。タスクでは主査に白鳥横国大名誉教授、幹事に森下規格委員会委員等が就任。弾塑性評価ガイドラインを初年度から 3 年間の期間で検討開始。現在参加形態等のアンケート調査を実施、集約中。

（１０）原子力発電用設備規格に関する報告／審議

（１０－１）シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン案

過酷事故時構造健全性評価タスクの瀬良幹事より、シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

（１）PWR－SCVガイドライン【資料 77-7-2-1, 2, 3】

先行のガイドライン同様、静的な圧力荷重に関する評価に限定してガイドラインを作成。フィルターベントを期待せず、シール部が耐熱性を有する温度範囲での評価を想定。なお、格納容器本体と生体遮蔽（コンクリート壁）が離れているため、格納容器本体が熱伸びにより生体遮蔽と接触し、損傷することは評価対象外とした。当たりつけ解析の結果、格納容器本体に関しては機器ハッチ補強部の板厚変化点で局所的な破損が先行。ただし、当たりつけ解析の範囲では、機器ハッチボルトが格納容器本体よりもクリチカルとなる可能性が高い。従って、当面の注目点はボルトとなるため、格納容器本体の局所的な破損評価については、精緻に限界圧力を求めるというよりは、評価に保守性を持たせ、クリチカル部位を見落とさない様にする。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・シール部の温度上限を 300℃程度と例示している根拠について書面投票時に参考資料として添付して欲しい。
→拝承。

・局所的な破損評価において構造体歪み集中係数に加えて溶接部歪み集中係数 1.4 を加えているが、余裕をダブルカウントしているのでは？→実験の知見がなく、溶接部形状の 3 次元解析モデル化も困難であるため、設定した。

（２）PWR－PCCVガイドライン【資料 77-7-3】

原子力専門委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、対応は編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(10-2) 使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 77-8-1, 2】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、清水幹事、下条委員、石生委員より使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1) 金属キャスク構造規格 2014 年版の今後の対応方針【資料 77-8-1】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）意見回答案に関する説明が実施された。反対票の内容は密封容器の蓋間圧力検出器の構成が軽水炉の小口径配管と同様な構成であるため、蓋間圧力検出器は密封容器の適用を除外すると言っているが、追加のガス補給が十分にできることを説明する必要があるのでは？というもの。回答として軽水炉の小口径配管と同様な構成というロジックはやめて、蓋間ガスは使用済燃料を内包する空間とは隔離されていること、蓋間圧力が大気圧までガスが漏洩したとしても使用済燃料が収納されている一次蓋内部の圧力は負圧が維持されており、放射性物質が放出されない等のロジックに変更。反対票取り下げとなるが、原子力専門委員会再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(2) 金属キャスク構造規格 2007 年版事例規格集改訂提案の今後の対応方針【資料 77-8-2】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の今後の対応方針に関する説明が実施された。アルミバスケット材料の事例規格について、クリープ試験データ拡充による S 値を検証すべき等の注意喚起を記載した事例規格集の発行を提案したが、原子力専門委員会書面投票で、多数の反対票、保留票が得られた。今後の対応は「金属キャスクバスケット材料検討タスク」での検討結果を踏まえて実施することとし、意見対応はしばらくホールドとする。

(10-3) コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案に関する審議【資料 77-9-1】

コンクリート製原子炉格納容器規格分科会の西澤幹事よりコンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の原子力専門委員会及び規格委員会の書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。共に一部に文章の記載ぶりの修正が発生。また規格案確認中、章番号の修正が発生。議論の結果、意見回答案は妥当であり、対応は編集上の修正であること、規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(10-4) 維持規格改訂案に関する審議【資料 77-10-1, 2, 3, 4】

維持規格分科会の野村主査、評価作業会の北条主査、補修作業会の安達主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1) 事例規格「JEAC4601-2008「耐震設計技術規程」の地震力の扱い」の改訂【資料 77-10-1】

規格委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(2) 事例規格 原子炉容器炉内計装筒 J 溶接部の欠陥評価【資料 77-10-2】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・応力評価はどこで行っているのか？→最外周で行っている。最外周が応力のレベルが最も高く、保守的評価となる。
- ・この事例規格のユーザーの使い方はどの様なものか？→欠陥が検出されたときに、まず保守的評価として最外周に欠陥を想定して、当事例規格に従い、欠陥が許容できるかどうかを判断する。許容できなければ、その欠陥位置に対する個別評価を実施するが、評価にはユーザの判断により、当事例規格の考え方を適用してもよい。
- ・SCC の発生・進展評価を応力レベルのみで評価して良いのか？最外周以外で発生した場合、応力レベルのみで説明できない。→製作施工条件等の別の原因が考えられるが、原因調査で検討することであり、当規格が扱う範疇外。

(3) ニッケル合金大気中疲労き裂進展速度線図【資料 77-10-3】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・本文が資料から抜けているので、投票時に添付すること。また制定済のニッケル合金大気中疲労き裂進展速度線図の事例規格も投票時に添付すること。
- ・BWRのニッケル合金大気中疲労き裂進展速度線図の事例規格は既に制定済であるため、今回の事例規格の制定により、2つの事例規格が並存することになるのか？→2つ並存するが、使用温度域や母材対象といった点で区別される。データ数は今回の方が多い。

(4) 参照している溶接規格の図表等の番号の見直し【資料 77-10-4】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。以前、規格委員会において、図表番号等の見直しに関する書面投票は不要ではないか？との意見があったが、溶接規格と維持規格の図表等の番号の不整合があることから、今回の提案ベースで原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(10-5) 溶接規格改訂案に関する審議【資料 77-11-1, 2, 3】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1) 原子力専門委員会再書面投票意見（投票 NO. 346）回答案【資料 77-11-1】

原子力専門委員会再書面投票意見（投票 NO. 346）回答案（可決）に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、対応は編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(2) 原子力専門委員会書面投票意見（投票 NO. 347）回答案【資料 77-11-2】

原子力専門委員会書面投票意見（投票 NO. 347）回答案（可決）に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、対応は編集上の修正であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(3) 規格委員会書面投票意見（投票 NO. 254）回答案【資料 77-11-3】

規格委員会書面投票意見（投票 NO. 254）回答案（可決）に関する説明が行われた。試験材の厚さが 19mm 未満で初層部のみティグ溶接を行う場合の曲げ試験の規定を削除する改訂をした際の旧版の溶接規格の規定に従い試験された溶接施工法試験の取扱いを WP-420 の本文に記載しようとする違和感が生じるため、今回の改訂では解説に記載した。なお、現在、旧版の溶接規格の規定に従い試験された溶接施工法試験の取扱いに関する事例規格を起案中であり、事例規格の本文で本改訂案の解説中に記載している内容を規定化することを検討中。議論の結果、意見回答案は妥当であり、対応は編集上の修正であること、規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(4) 規格委員会書面投票意見（投票 NO. 255）回答案【資料 77-11-4】

規格委員会書面投票意見（投票 NO. 255）回答案（可決）に関する説明が行われた。肉盛/クラッド溶接部の開先面の非破壊試験に関する改訂（案）の文案では、改訂の意図とは異なる誤解を生む可能性があるため、今回の改訂（案）から除外し、肉盛/クラッド溶接部の開先面の取扱いは、文案のブラッシュアップを図った上で、別件の改訂で再提案をする。議論の結果、規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(5) 溶接規格 2015 年追補改訂案【資料 77-11-5】

溶接規格 2015 年追補改訂案に関する説明が行われた。溶接金属、溶加材、心線区分番号の改訂案以外に、P-No 区分も現在見直し中であり、次回の原子力専門委員会でも P-No 区分の改訂（案）の書面投票の実施を提案する予定である。A-No（溶接金属）、R-No（溶加材）、E-No（心線）の区分番号の改訂（案）は、規格委員会の書

面投票で可決済であるが、2014 年追補には反映しないで、A-No、R-No、E-No と P-No の区分の改訂をセットにして 2015 年追補に反映する予定である。P-No 区分の改訂（案）は ASME Sec. IX と整合させるようにしている。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（10-6）設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 77-12-1～3】

設計・建設分科会の朝田主査より設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

（1）設計・建設規格 2014 年追補追加改訂案規格委員会書面投票意見回答案【資料 77-12-1】

設計・建設規格 2014 年追補追加改訂案の規格委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であること、規格委員会に意見回答案を説明し、意見回答案了承後に公衆審査実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

（2）クラス 2 ポンプ鋳造品に対する非破壊試験要求【資料 77-12-2-1】

質疑応答案件であるクラス 2 ポンプ鋳造品に対する非破壊試験要求に関する説明が行われた。議論の結果、「認められない」という回答案が委員全員の賛成により承認された。

（3）計装用ウェルのシール溶接の現場溶接の扱い【資料 77-12-2-2】

質疑応答案件である計装用ウェルのシール溶接の現場溶接の扱いに関する説明が行われた。議論の結果、「良い」という回答案が委員全員の賛成により承認された。なお、現場溶接という用語は一般的ではないため、今後削除あるいは説明の追加等の見直しを検討する。

（4）クラス 2 容器継手区分 D 構造図備考誤記【資料 77-12-2-3】

質疑応答案件であるクラス 2 容器継手区分 D 構造図備考誤記に関する説明が行われた。議論の結果、「良い」という回答案が委員全員の賛成により承認された。なお、同様な誤記が他の区分の容器や配管にも見られることから、確認して別途正誤表を出すことになった。

（5）設計・建設規格 2012 年版正誤表提案【資料 77-12-3】

設計・建設規格 2012 年版正誤表提案に関する説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により正誤表発行が承認された。

（10-7）材料規格改訂案に関する審議【資料 77-13-1～3】

材料分科会の山田主査より、材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

（1）規格委員会書面投票意見（投票 NO. 250）回答案【資料 77-13-1】

規格委員会書面投票意見（投票 NO. 250）回答案（可決）に関する説明が行われた。添付 1 修正案の昭和 55 年告示等の記載については告示番号または文書の名称等を追記する。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

（2）原子力専門委員会書面投票意見（投票 NO. 348）回答案【資料 77-13-2】

原子力専門委員会書面投票意見（投票 NO. 348）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

（3）材料規格 2014 年追補改訂案（その 3）提案【資料 77-13-3】

材料規格 2014 年追補改訂案（その 3）に関する説明が行われた。JSME-N12 GNCF1 JIS 相当材取込み検討について、改訂案の許容値、物性値等は GNCF1 と同じである旨明記する。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施すること、原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会書面投票提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

（4）質問回答案【資料 77-13-4】

質問回答案に関する説明が行われた。議論の結果、以下の通り質問回答が承認された。

QNC2005110：良い。

QNC2005111：良い。

QNC2005113：可能。

(5) 正誤表発行提案【資料 77-13-5】

正誤表発行提案に関する説明が行われた。No. 1 及び No. 3 は承認。No. 2 は SUS403 相当材は同定されていないため継続検討。

(10-8) 高速炉規格改訂案に関する審議【資料 77-14】

高温規格分科会の浅山主査より、設計・建設規格第Ⅱ編改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1) 2014 年追補案原専書面投票 NO. 350 意見対応案【資料 77-14-1】

2014 年追補案原専書面投票 NO. 350 意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、意見対応案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

(2) 設計・建設規格第Ⅱ編 2014 年追補案（その 2）【資料 77-14-2】

設計・建設規格第Ⅱ編 2014 年追補案（その 2）に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することおよびその可決を条件として規格委員会の書面投票を開始することを規格委員会に提案することが委員全員の賛成により承認された。

(10-9) 配管減肉管理規格改訂案に関する審議【資料 77-15-1～5】

配管減肉分科会の稲田主査、北条副主査、小島幹事、天野委員、BWR 作業会の中間主査、PWR 作業会の平井幹事より配管減肉管理規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1) 規格委員会書面投票（NO. 245）意見回答案【資料 77-15-1】

規格委員会書面投票（NO. 245：一部可決）意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案が現在検討中となっている NO. 5、NO. 6、NO. 14、NO. 16、NO. 17 については次回以降審議。また NO. 1 については各委員の意見に対する回答相互の整合が分かりにくいこと、及び論点の明確化が不十分なことから検討とし次回以降審議。NO. 13 は修正案を再書面投票にかけることが提案された。これら以外の案件については意見回答案が妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・NO. 1 の意見回答案において、規格委員会内規の「引用する規格の年版について」に基づいて意見回答案を作成した。即ち、配管減肉管理規格は供用時規格であることから、他規格を引用する場合は年版を指定しない、及び、規格適用の考え方を一般事項にて所有者が年版を決めると規定した。一方で、委員コメントは、内規の原則にとらわれずに、供用時規格であっても最新規格が適用できるかを検討すべきとの意見である。以上の様な点を踏まえ、次回以降論点を整理して審議する。

(2) 規格委員会書面投票（NO. 246）意見回答案【資料 77-15-2】

規格委員会書面投票（NO. 246：全て可決）意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案について、意見者は全て了解済。ただし、上記（1）の NO. 1 が次回以降に再度審議することになったため、対応する NO. 12 についても、次回以降再度審議することになった。これ以外の案件については意見回答案が妥当であり、編集上の修正であること、規格委員会に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

(3) 規格委員会書面投票（NO. 253）意見回答案【資料 77-15-3】

規格委員会書面投票（NO. 253：反対票有り）意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案により、反対票は取り下げられ、保留票となったため、可決。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正である

こと、規格委員会に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

(4) R Tを適用する際の引用規格の見直し案【資料 77-15-4】

R Tを適用する際の引用規格の見直し案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(5) 各配管構成要素の形状係数の引用文献の修正案【資料 77-15-5】

各配管構成要素の形状係数の引用文献の修正案に関する説明が行われた(本件前述の(1) NO. 13 の修正案)。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(1 1) 各分科会活動報告【資料 77-16】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

原子力専門委員会の今後の予定は以下の通りになった。

第 78 回 : 2014 年 8 月 28 日 (木) 10:00~17:00 (予定) JSME 第 1 会議室

以上